

ガラスについて

当社のガラスは【ソーダガラス】・【耐熱ガラス】・【全面物理強化ガラス】がございます。

ガラスは割れるものです。使用方法をよくお読みいただき、ご使用ください。

■使用方法について

- ・ひび割れ、欠け割れ（口部は特に）をした製品の使用は避けてください。
- ・ガラス同士あるいは硬いものとぶつからないように扱ってください。
- ・ナイフやフォークやスプーン等をガラスの中に入れてたり、ガラスを傷つける可能性がある鋭角製品の保管用に使用しないでください。
- ・「スタッキング可能」の表示がないアイテムは、スタッキング（積み重ね）の保管・使用は避けてください。
- ・ガラス製品は中性洗剤などで洗ってください。その際ガラスを傷つける恐れのある研磨剤入りのスポンジ、金属たわし、クレンザー等の特殊洗剤は使用しないでください。
- ・大きめのガラスの場合は柄つきスポンジのご使用をおすすめします。また濡れた手で扱いますと滑りやすくなりますのでご注意ください。
- ・万が一破損した場合は、素手で拾って集めたりせずに掃除用具等にて処理してください。

耐熱ガラスについて



■耐熱ガラスとは

別名「ホウ珪酸ガラス」と言い、ガラスの膨張率が低い、温度変化に耐えるガラスです。（原材料：珪砂・硼砂・硼酸）

■使用方法について

特徴を生かした様々な使用方法が可能です。

たとえばガラスコップに直接熱湯を注いだり、ガラス器のまま電子レンジで温めたりなど、普通のガラスでは不可能であった使用方法が耐熱ガラスで可能となります。

ただし弊社一部製品に他素材との複合商品（ステンレス、プラスチック、シリコン等々）があります。

あわせて下記《ご注意いただきたいこと》の項目を充分にお読みくださる事をお願いいたします。

《ご注意いただきたいこと》

- ・強化ガラスではありません。
- ・電子レンジ使用後や熱湯を注いだ場合、本体全体も熱くなっております。やけどにお気をつけください。
- ・電子レンジでの使用方法について、製品（容器）の中に何も入っていない状態で使用は絶対に避けてください。
- ・突然一気に沸騰して湯が激しく噴出す恐れがあるので、加熱中は顔などを近づけないで下さい。（家庭用品品質表示法に基づく）
- ・加熱した耐熱ガラスに急に冷水を入れたり、濡らした布などの上や冷えた作業台なども含めた台の上に置いたりしないでください。
- ・熱湯は約100°Cまで使用可能となります。高温に熱した状態で急速に冷やす事は避けてください。
- ・一部取外しの可能な金属製の取っ手などの場合は、必ず取り外してから電子レンジや食器洗浄器でご使用下さい。
- ・ひび割れ、欠け割れ（口部は特に）をした製品の使用は避けてください。
- ・ガラス同士あるいは硬いものとぶつからないように扱ってください。
- ・ナイフやフォークやスプーン等をガラスの中に入れてたり、ガラスを傷つける可能性がある鋭角製品の保管用に使用しないでください。
- ・オープン・直火・ホットプレート・電熱器のご使用は、絶対に避けてください。
- ・食器洗浄器をご使用の場合：食器洗浄器のメーカー取扱説明書を確認の上、ご使用をお願いします。ガラス同士や他の製品とぶつからないように充分ご注意ください。
- ・また洗浄完了後すぐにご使用せず温度が下降した後にご使用ください。思わぬやけどをしてしまう恐れがございます。
- ・手洗いの場合：ガラス製品は中性洗剤などで洗ってください。その際ガラスを傷つける恐れのある研磨剤入りのスポンジ、金属たわし、クレンザー等の特殊洗剤は使用しないでください。大きめのガラスの場合は柄つきスポンジのご使用をおすすめします。また濡れた手で扱いますと滑りやすくなりますのでご注意ください。
- ・万が一破損した場合は、素手で拾って集めたりせずに掃除用具等にて処理してください。
- ・上記の様な正しい使用方法以外で使用された場合、破損の原因となり、思わぬ事故につながります。
- ・くれぐれもお取り扱いにはご注意ください、永くご愛用いただけますようお願い申し上げます。

全面物理強化ガラスについて



■全面物理強化ガラスとは

ソーダガラスを熱強化処理にて全面に熱強化、衝撃強化したガラスです。（※全世界でTEMPERED GLASSと呼ばれているガラス製品です。）

■強さの秘密

製造工程にあります。ちょうど鋼（ハガネ）を作る工程と似ておりますが、高温で成型されるガラスを700°Cから一気に20°Cにまで冷却する事により、

表面にクルミの殻（から）のような固い保護膜が出来ます。この工程により全面物理強化としての強さを作り出しているのです。

普通のガラス製品に比べ約2.5倍の衝撃強度を持っております。また通常ガラスの耐熱温度差が約60°Cであるのに対し、約120°Cの温度差に耐える事ができます。

品質管理についてもメーカーでは強度や耐熱性についての数種テストを行い、クリアしたものを製品化しております。